

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200116		
法人名	有限会社 ケアソリューション		
事業所名	グループホーム すずらんの家		
所在地	恵庭市黄金北3丁目12-6		
自己評価作成日	令和3年3月6日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jigyosyoCd=0171200116-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和3年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「食事がおいしいこと」終の棲家において重要なポイントと考えています。家庭料理やイベント食などを工夫しています。キザミ食、ミキサー食など嚥下機能が衰えても食の楽しみが持続するように力を入れています。今年はコロナの為中止となりましたが、家族や市役所職員、地域の方々やドクター等連携している時間を作り、鍋パーティーを開催し良好な関係を築いています。職場環境においても研修の実施、労働時間など働きがいのある職場づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幼稚園、中学校、大学や医療機関、スーパーなどが点在する住宅街にあり、建物に面した道路には桜の木が植えられ、桜の季節には室内から花見を楽しめる緑も多い環境の中にあります。事業所の根幹となる理念「やさしさ、気配り、よりそい」は掲示や会議の中での唱和、すずらん便りの中に記載し代表者、管理者、職員全員で共有し実践に繋げています。2年前、管理者は職員とケアの在り方や就業整備に関する話し合いを幾度も重ね、現在はケアの取り組みや就業環境の改善から職員の向上心ばかりではなく、「笑顔の職員さんばかりですね」との来訪家族の声にも繋がっています。外出は自粛緩和時期、全員分の車イス、テーブル、椅子を持ち栗山公園、大滝村「きのこ王国」へドライブを楽しみ利用者の気分転換やストレス解消に繋げています。職員は内部研修を毎月開催、外部研修にも参加して研鑽を重ねています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビング、事務所に提示している。基本理念に沿った援助ができるよう取り組んでいる。	安らぎのある生活の場、地域の一員としての自覚を掲げた理念は共用空間要所に掲示しているほか、ずずらん便りにも基本理念を記載して、事業所と関わる多くの方々にも実践の姿勢が見えるように取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は町内会への参加、近隣の保育園との交流などがあったがコロナの為に現在は中止している。	例年は町内会行事への参加や町内会便り、回覧板で地域との情報共有を図り、多くの交流や大学生の実習受入れ、サポーター講座などが行われていましたが、コロナ禍により中止をしています。音楽療法ボランティアはパーティーを設置して感染対策を講じ、月1～2回来訪して交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板にてホームの様子や講演会のお知らせなど情報の発信などを行っていたがコロナの為に現在は中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、グループホーム内の取り組み、発見報告などを行い、参加者の意見を活用しサービスの向上に生かしていたがコロナの為に現在は行っていない。	運営推進会議は家族、市福祉課担当職員、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員への書面送付で行い、送付議事録の活動報告書は利用者の日々の過ごし方が分かりやすく詳細に記載され事業所の理解に繋がるよう工夫されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や、包括会議、メールなどで情報交換や連絡を取っている。	コロナ禍により行政とはFAXや電話での連絡ですが、例年は市福祉課担当者職員の運営推進会議参加や地域包括支援センターと共催の活動を通して協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みを行い、施設内外の研修に参加し、周知している。玄関の施錠はせず言葉のかけ方にも気を付けている。	身体的拘束等適正化のための指針を整備し、委員会開催、定期的な研修や外部研修で学ぶ機会を通して職員は身体拘束の弊害を理解し、玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同時に虐待防止についても委員会で話し合いを行っている。研修で学ぶ機会を持ち理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行い、職員への周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にご自宅へ訪問したり、ご家族にホームに来ていただいたりし必要書類について十分に説明を行っている。入所後も不安や疑問を尋ねやすい雰囲気作りを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。面会時、運営推進会議等にも意見や要望を聞くようにしている。	家族会の代表が運営推進会議に参加の際や、家族の来訪時に意見や要望を聞き、運営に反映させるよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場で提案できる機会を設けている。必要時には個別面談の機会も設けるよう取り組んでいる。	内部研修の一環として職員主導の会議は全員持ち回りで司会、記録を担当することで、代表者との意識共有の機会となり運営に繋がっています。又、管理者は職員と就業環境整備に関して幾度も話し合い、職員の向上心や更なる笑顔のケアに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与形態を見直し能力給を設けて向上心ややりがいを持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自ら研修計画を策案し自己研修を図る取り組みを行っている。外部研修にも積極的に参加していたが、コロナの為今回は1回のみ。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	恵庭市のグループホームネットワークの会で研修や会議に参加し、交流の場を作っている。参考点は積極的に取り入れている。職員の誕生日には食事会を行い職員間の交流の機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い本人に合った生活ができるよう支援している。不安や要望を職員間で共有し意向をできるだけ実現していけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前よりご家族と話をする機会を作り、要望や意見などお互いに相談しあえる関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時などに、状況を把握し必要な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを行ってもらうなど、役割を持っていただき一緒に暮らしている家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況を伝えるようお便り以外にも面会時には状況を報告し、相談しながらご本人と一緒に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないよう支援をしてきたが、高齢化、重度化が進み訪問が難しくなっている。訪問専門の理美容を利用しており唯一の馴染みとなっている。	散歩で地域住民と一緒に花を眺めたり、町内会便りの配布などで地域との交流支援に努めています。コロナ禍の現在は、家族と玄関で窓越しの面会や訪問理美容、往診医療関係者との馴染みの支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、必要時は職員がさりげなく声掛け、橋渡し役をしている。洗濯ものたたみ等を一緒にしていただくなど入居者同士が関われる環境を見つけ共同生活が送れる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に相談していただけるような関係づくりを日ごろから心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、本人の思いや意向を聞いてスタッフで話し合い、本人の思いに添った生活の実現に努めている。また、自己表現が困難な方の心情の把握に努め、本人の希望、意向に添えるように検討している。	利用者の思いは日々の関わりから汲み取っています。ある利用者が食べることに興味があることがわかり、通常はミキサー食でも赤飯や寿司は食べられると知った事例もあり、利用者の思いや力を理解し思いに沿えるよう本人本位に検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時に聞き取りを行うなど、これまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの様子を観察し、記録に残し現状の把握に努めている。毎日のバイタル測定で体調の把握にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにモニタリングを行い、本人、家族の意向を聞いている。本人の状態に合わせて検討が必要などときにはカンファレンスを行い現状に即した支援ができるようにしている。	業務改善の一環として介護ソフトを導入し、アセスメント、介護計画及び見直し書、ケース記録、ユニット毎のカンファレンス記録などがパソコンデータで管理されています。昼食後のミーティングでは詳細な情報がデータ更新され、現状に即した介護計画作成をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から介護計画の見直しを行っている。また、申し送りの活用、ミーティング、ケアカンファレンスなどにより職員の気づきの共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望や意向をその都度確認し状況に応じて柔軟に支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加している。季節や気温によって外気浴や散歩などを行っていたが、コロナのため現在はできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医（訪問診療）や、主治医に定期的に診療を受け、近況を報告し適切な医療が受けられるように支援している。	利用者希望のかかりつけ医への受診のほか、週3回の往診、訪問看護師が週1回来訪しています。受診は職員対応で行い治療変更内容は家族に伝え、情報を共有しています。又、看護師職員は訪問看護師と連携を取り、信頼関係を築いています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について介護職と看護職の連携に努め、看護職員が必要な助言や指示を行っている。夜間は看護職員と管理者がオンコールにて緊急時対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、情報提供を行い本人家族が安心して治療できるよう、主治医などと話し合う時間を作ってもらっている。早期に退院できるように努め家族と一緒に対応や注意事項を聴き関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居の際には看取りの説明を行っている。重度化した場合や終末期には家族と面談し迅速に方針を決定している。ご本人や家族の希望に添った終末期を過ごせるように支援している。	重度化に関しては利用者の状況から家族と話し合い、事業所対応を説明して方針を共有しています。看取りの指針は1年前に同意書内容を変更し、現状の対応に適した文書となっています。看取り後は振り返りシートに看取り対応を詳細に記録しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で急変時や事故発生時の研修や対応の訓練を行っていたが、開催が不定期で近頃は行われていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会い、自主避難訓練を地域の協力を得て、火災、地震、夜間を想定して行っていたが、コロナの影響で今年は行えず自主訓練のみ。	避難訓練は消防署職員立ち合いの訓練、昼夜想定自主訓練を行い、市内グループホームとの協力体制や地域住民の協力体制も築いています。備蓄食料は期限切れに配慮し食事の献立で使用、新たに備えるようにしています。災害体験を行い今後の対策に活かしています。	事業所は様々な避難訓練を行っていますが、今後は介護度が高くなってきている利用者を昼夜を問わず安全に避難できる方法を全職員が身につけ、更に地域住民とも協力や役割分担などの話し合いが行われることを期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修にて接遇や個人情報保護について学ぶ機会をつくっている。プライバシーに配慮し尊厳が守られる様な接し方、言葉づかいを心掛けている。	職員は内部研修やミーティングで話し合い、人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮しながら対応をしています。個人情報はキャビネットに適切に保管しています。利用者の希望で、以前から呼ばれていた名前の呼びかたの対応もしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を設けたり、目で見て選んでいただくなど自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人の意向に沿ってその人のペースに合わせて、体調に配慮しながらその人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や散髪は本人の希望の髪型を楽しんでいただいている。季節に合った衣類の交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を献立に取り入れ、入居者の好きな食べ物を行事食としている。出前を頼んだり、みんなで鍋を囲んだり、楽しみながら食事ができるよう工夫している。できる範囲で調理など一緒に行っている。	行事食、誕生日の食事は希望の献立や、出前の寿司、釜めし、ピザなどを取り入れ、楽しみな食事となっています。重症化し、飲み物摂取のみベットで行っていた利用者を食事の時間、リビングの椅子に移動、回数を重ね食欲に繋げ、咀嚼の食事や好みの食べ物も食べられるようになった事例もあり、支援の工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し、食事や水分摂取の低下がみられたり、体調などを考慮して捕食等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。仕上げが必要な方は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し、その方にあったパットを使用し、トイレへの声掛けをしている。できるだけ、トイレで排泄できるよう支援している。	利用者の状態に応じて自力排泄の誘導、見守りをしています。パットや紙パンツの使用もパターンを把握し、一人ひとりについて常に見直し、トイレでの排泄を基本に支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況に応じて、医師と相談し下剤を使用、調整している。また、ヨーグルト、水分、オリゴ糖などを取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	職員の人数、介助入浴が増えたことから、曜日、時間帯を決めて入浴している。入浴剤を使ったり、湯加減を調整しています。	週2回、午前の時間帯で入浴をしています。浴槽が深いため、湯船に入る工夫や入れない利用者の対応を工夫し、お喋りしながらゆっくり入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣や、体調、希望に応じて個々のペースでゆっくりと体を休めていただいている。夜間は入居者のペースで居室に戻ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意し、薬情は職員がいつでも見られるよう個人ファイルにとじている。服薬時飲みこみまで確認し飲み忘れの内容にしている。看護職とも連携し状況の変化に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や手芸、新聞購読など、今までの生活や趣味が継続できるように支援している。レクリエーション等で楽しみや気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日帰りや観光に行ったり、ドライブ、公園への散歩などを行っていたが、コロナの影響で、今年は2回のドライブのみとなっている。重度化が進み、遠方への外出は難しくなっている。	コロナ禍の現在、日常的な外出は散歩くらいですが、自粛緩和時には9台の車イス、テーブル、椅子を車に積み、全員で馴染みの栗山公園や大滝村「きのこ王国」に出かけています。今年度も外出予定を作成し、状況を見ながら外出計画を検討しています。	利用者の重度化やコロナ禍の外出支援は困難ですが、管理者、職員は状況を見ながら外出の計画、工夫の支援姿勢がありますので、様々な外出支援に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方は少ない。使う機会は今年はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望には家族に電話の代行して掛けている。手紙を受け取ることはあるが、字が書けず返事を出すことはない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節ごとの装飾を行っている。サンルームやリビングに洗濯ものを干したり、リビングで調理しているのが見えたり調理の香りなどが感じられる居心地の良い空間づくりをしている。	冬期間、リビングは灯油暖房で温かく過ごせるようにし、乾燥対策には加湿器を増設し、夜間帯はシーツなど大きな洗濯物を干して対策をしています。リビングに重度化してきた利用者のベットを置き、日中は全員の顔が見えるリビングとなり、利用者、職員の思いがある工夫された空間づくりです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室で一人で過ごされたり、リビングの椅子やソファでしゃべりやテレビを楽しんでいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅ですわかれていた家具等を持ってこられ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。重度化でリビングで過ごすなど難しくなっている。	居室はクローゼットが設置され、暖房はオイルヒーターを使用して安全に配慮しています。利用者はタンス、ソファ、ドレッサーなど使い慣れた家具を持ち込んだり写真を飾り、心地よく過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルなど家具の配置、シルバーカーの置き場所など配慮している。歯ブラシ、コップなどとりやすい場所を検討してできる限り自力で行えるよう支援している。		